

瑞穂市子どもの読書活動推進会議 会議録

審議会等の名称	令和3年度 第2回 瑞穂市子どもの読書活動推進会議
開催日時	令和3年 9月28日(火曜日) 午後3時30分 から 午後5時
開催場所	菓南庁舎 大会議室
議題	1. 子どもの読書活動に関わるアンケート結果及び分析について 2. 第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の原稿について
出席委員 欠席委員	辻 正益・辻 治彦・谷藤 直美・井深 吉男・船戸 菜摘・本間 友理・佐藤 彰道 ・高田 敏朗・宇野 睦子・藤本 桂子・瀬上 涼 高橋 由夏
公開の可否 (非公開理由)	公開可
傍聴人数	0人
審議の概要	<p>1. 子どもの読書活動に関わるアンケート結果及び分析について 子どもの読書活動に関わるアンケート結果及び分析について事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生への質問「1か月で何冊本を読みますか」には、学校で読んだ分も含めている。「読まない」と回答した子は、不登校や朝読書に登校が間に合わないなどの事情があることが考えられる。中学生は1か月に1冊を読み切ることができない子もいるのでは。 ・以前の会議で、「子どもが学校と家の読書量を分けて判断するのは難しい」という結論になり、学校で読んだ分も含めて回答してもらっている。 ・「場所がわからないから市の図書館に行かない」という回答が小2で55.8%、小5が29.6%。特に分館のPRが必要である。 ・幼稚園・保育所の図書充実が必要であるとの認識は園にもあり、園児数の2割の冊数の絵本を購入するために予算化していく予定である。 ・本を読むのが「好き」との回答が小2で82.8%、小5で80.3%、中2で53.5%。「1か月に20冊以上本を読む」との回答が小2で43.1%、小5で33.1%であり、子どもの読書活動推進の取組の成果である。 ・「瑞穂市が『読書のまち』をめざしていることを知らない」との回答が74.2%。もっとPRが必要。 ・今後の取組として「かきりん」をキャラクターとした絵本を作成し保護者にプレゼントしても、「家に絵本がある」という環境の充実にはつながらない。子どもには良い絵本を手渡すべきである。 <p>2. 第三次瑞穂市子どもの読書活動推進計画の原稿について を事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書のまち」は、どの段階で宣言できるのか。不読率の努力目標達成の時点？ ・「骨子」に、「『子ども図書館』をめざした市図書館分館の整備」を入れ、分館を「子ども図書館」にするために計画的な取組を進める。 ・ブックスタートの際に市図書館のリーフレットを渡しているが、もっと分館をPRするために親しみやすいリーフレットを作成したい。 ・市図書館から園・小中学校へ本の情報を発信してほしい。それが園・小中学校の図書室の充実につながる。 ・大月の多目的広場が完成するので、広場にきた人に「子ども図書館」があることをわかる看板などを設置してPRする。 ・大月の多目的広場を利用して、本のフリーマーケットなどのイベントを開催し、『読書のまち みずほ』ののぼり旗を掲げ、PRする。 ・図書館での取組で「読み聞かせボランティア団体の支援」とあるが、図書館で常

	<p>駐して図書整理をしたり来館者に対応したりするボランティアの活用も考えられる。→来館者に対応し司書につなげることなど可能なことから考えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書通帳に市図書館の情報を入れてはどうか。また、小中学校のタブレットに市図書館のホームページのショートカットを貼り付けると市図書館の情報を得ることができる。 ・図書館の司書の知識や技術向上のために研修や採用に関する取組を入れる。 ・中学生の不読率の改善のための取組で、本の紹介やビブリオバトルがある。本が好きな子は積極的に取り組めるが、そうでない子は負担感をもつ。タブレットが貸与されたので、電子書籍を導入することも読書のきっかけになるのではないか。 ・まずは紙の本にふれる機会として、中学生が入りやすい市図書館や学校図書館にしていきたい。 ・市ホームページのトップ画面に「あいさつのまち」「読書のまち」を掲載してはどうか。 ・PTAの広報誌も活用して「読書のまち みずほ」をPRしていくこともできる。
<p>事務局 (担 当 課)</p>	<p>瑞穂市教育委員会生涯学習課 TEL (058) 327-2117 FAX (058) 327-2105 e-mail syougai@city.mizuho.lg.jp</p>